

## 桜島火山 2007年-2005年空中磁気データから検出された磁気異常変化

## Aeromagnetic anomaly change detected from the Sakurajima Volcano 2007 and 2005 data

# 大久保 綾子 [1]; 宇津木 充 [2]; 神田 径 [3]; 中塚 正 [4]; 桜島電磁気構造探査グループ 神田 径 [5]

# ayako okubo[1]; Mitsuru Utsugi[2]; Wataru Kanda[3]; Tadashi Nakatsuka[4]; Kanda Wataru Sakurajima Volcano EM field experiment group[5]

[1] 産総研; [2] 京都大学; [3] 京大・防災研; [4] 産総研 地質; [5] -

[1] AIST; [2] Kyoto Univ.; [3] DPRI,Kyoto Univ; [4] GSJ, AIST; [5] -

桜島火山では、科学研究費補助金「特定領域研究：火山爆発のダイナミクス」の一環として、2005年11月に空中磁気探査を実施し(大久保ほか, 2006), 2007年11月にも、火山噴火予知計画の火山体構造探査の一環として、桜島・始良カルデラを中心とした空中磁気測量を実施した(宇津木ほか, 2008)。これらの飛行測線は、将来の時間変化検出を念頭に置いた「低高度」稠密測定からなる。

そこで、桜島火山の火山活動に関連した磁気異常変化抽出を目的に、等価ソースによる高度リダクション処理を応用した拡張交点コントロール手法(Nakatsuka and Okuma, 2006)を、時期を隔てた2005年11月と2007年11月の空中磁気探査データに適用したので、報告する。